



人権啓発コーナー

人権が尊重され、生きがいを感じられるあたたかい町

9月は防災月間であり、9月1日は防災の日です。近年、地震・台風・豪雨などの自然災害により各地域で大きな被害を受けています。災害では多くの人命が危険にさらされます。人命を守ることを第一に考え、人権に配慮した避難誘導や避難所運営が必要になると思います。日頃から防災意識を高め、個人でできる防災対策を心掛けましょう。町では「氷川町総合防災マップ」を各家庭に配布しています。ご一読ください。

す。筒になる部分と押し出す棒のバランスを取ることが難しいため、水が上手く飛び出すように子どもたちは試行錯誤しながら楽しんでいました。



第4回子ども人権教室

7月15日、子ども人権教室を開催しました。今回は、モクスガニと水でつぼうの竹工作に挑戦しました。モクスガニは他のカニと違い、大きなはさみ以外は足の先がとがっているのが特徴です。水でつぼうは、昔ながらの遊び道具で

人権学習 Web 講座

テーマ 差別をなくし誰もが輝く人権のまちに

日時 9月11日(月)13時30分
場所 氷川町文化センター講堂

問 生涯学習課
☎0965-5215860



地域おこし協力隊 活動レポート ③③



インスタグラム



7/22 料理教室を開催しました!

スタミナにらそうめん、大葉のチーズチヂミ、丸ごと無限ピーマン、ミルク餅を作りました。

7/26 小学生クッキングを開催しました!

ところてん、晩白柚のポン酢、晩白柚シュークリームを作りました。ところてん突きは、緊張しながら楽しんでくれました。

料理教室のお知らせ

／ 今回が最後の料理教室です ／

- 日時 9月23日(土) ①10時～②13時30分～
- 場所 氷川町文化センター 調理室
- 参加費 500円
- 持参物 エプロン・三角巾・タオル・保冷バッグ・水筒
- 申込 地域おこし協力隊 蜂須 (農業振興課内)
☎0965-52-5854
- 締切 9月15日(金)

町民文芸

投稿先 〒869-4814 氷川町島地642番地 企画財政課宛 (毎月5日必着)

短歌

父のいたマルタ島へと孫が行く
戦争でなく英語学びに
西上宮 村内 一誠

涼しきにさそわれ飲みし
一合の二合の酒に星月夜かな
北野津 井田 道寛

葉の影にゴーヤ一本見つけたり
ゴーヤチャンプル友をさそいて
西野津 古崎 スエノ

食卓の彩どるサラダ夏野菜
美味しく食ぶる舌ならず
西野津 古崎 栄子

俳句

人生は果敢無きものよ
昨日迄笑みてゐたりし人逝きにけり
吉本 高橋 澄子

高野マキ三十センチも新芽伸ぶ
西上宮 村内 一誠

火の国の二百二十日の風白き
北野津 井田 道寛

夏野菜六品揃えて友に分け
西野津 古崎 スエノ

うちわ風涼しく和む茄子の花
西野津 古崎 栄子

庭に伸ぶコスモス季節知らせけり
吉本 高橋 澄子

青田風ふるさと学ぶ子らに吹く
上鹿島 三枝 恵



八火図書館だより

暦の上では初秋となりますが、日中はまだまだ暑い日が続いています。9月には「敬老の日」があります。多年にわたり社会に尽くしてこられた方々は、さまざまな知恵や知識をお持ちです。読書と重ねて、身近なお年寄りに昔話や暮らしの知恵などを尋ねてみると、読みの楽しみが広がるのではないのでしょうか?

おすすめ図書

「月とコーヒー」 吉田 篤弘

あとがきで著者が言うように「一日の終わりの寝しなに読むのに丁度いい24編の短編集。一気に読まず、一日一話少しずつ読むのが一番楽しめる気がします。眠れない時にオススメしたい本です。」



小学生の図書館利用

先日、宮原小6年生32人が国語の授業のために八火図書館を利用しに来てくれました。図書館の中で参考になる本を探したり、パソコンを使って調べ学習をしたり熱心に取り組んでいました。

新着図書紹介

一般書	児童書
歩く亡者 三津田 信三	へんしんようかい あきやま ただし
ブラックバースデイ 麻加 朋	ぼくのともだちガムーサ 市川 里美
聴こえない母に訊きに行く 五十嵐 大	はなとりかえっこ 角野 栄子
90歳、老いてますます日々新た 樋口 恵子・岸本 葉子	ちょっとこわいメモ 北野 勇作

問 八火図書館
☎0965-6213489

5年生が国語の授業で

俳句を作りました



春の空たてに流れた雲のじ
竜北東小 平山美桜璃 (反甫)

カエルの田きれいな水のわかれ道
竜北西部小 佐藤凛太郎 (下鹿島)

雨がふりやむときれいなにじがさく
宮原小 開原知治 (早尾)

「処刑の部屋」X²

2022.2.1 石原慎太郎 死す 89歳!! ニュースの多くが政治家石原を語っている。

「太陽の季節」が表にでていたが文学作品としては、「処刑の部屋」を見逃すことはできない。死によって、本編にこの短い前書きを添える破目になった。

「こ、この野郎、女を蹴りやがったな」「そうよ、ここまで来て、お涙流いてえもんだ」「葉っ」石川が爪先でそう言う克己の鳩尾を蹴った。椅子ごとまた倒れながら、胃のシンから太く熱いものが胸の内側をしめつけ息が出ず克己は気を失いかかった。たおれたままの克己の顔を石川が踏みつけた。髪にねじ込む靴裏の鉄の感覚だった。その痛みで気を取り戻した。「もうやめて」頸子が石川に叫んだ。